令和５年度　重点取組項目　職員評価（令和６年２月実施）

	1 基礎基本の定着	2 基本的生活習慣の確立	3 生徒自主・自律・共生の育成	4 進路指導の充実	5 開かれた学校づくり	6 危機管理及び健康管理	重点事項	具体的な取組	評価割合 達成している 4	概ね達成している 3	あまり達成していない 2	達成していない 1	点数	部科長・主任コメント
総務部			○		○		オープンハイスクールの充実	オープンハイスクールの内容をより充実し、中学生や保護者にアピールする。	36.7%	63.3%	0.0%	0.0%	3.37	各科がそれぞれの特徴を活かしている。
					○		広報活動	HPやPTA広報誌『聲』、学校案内を充実する。また、生徒連絡を十分に行う。	46.7%	50.0%	3.3%	0.0%	3.43	PTA広報誌は、PTAの皆さんがよく考えて作ってくださっている。
			○			○	危機管理の徹底	防災マニュアルや消防計画書の作成と周知、避難訓練の実施。	43.3%	50.0%	6.7%	0.0%	3.37	危機管理マニュアルの更新を毎年行なっている。防災に関してはどんどん新しい情報を取り込んでいる。
			○			○	図書室の利用推奨・生徒の居場所づくり	読書に親しめるように、蔵書・施設環境の充実を図り、図書委員とともに読書啓発活動を企画運営する。図書室の開放日を増やし、生徒が落ち着いて過ごせる場所づくりに取り組む。	46.7%	46.7%	6.7%	0.0%	3.40	「本」の価値が問われている昨今ではあるが、図書室は様々な時間で活用されている。
			○	○			図書室の授業利用の促進	課題研究や、問題解決のための情報収集ができるように、情報機器の管理や工業や商業に関する蔵書の充実に取り組む。	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%	3.17	コンピュータも新しくなった。各科だけでなく、教科に関する図書も購入している。
			○				人権ＨＲ・行事の実施	各学期ごとに人権ＨＲや人権行事（映画鑑賞・講話）などを実施する。	20.0%	53.3%	26.7%	0.0%	2.93	人権行事を各学期ごとに実施できるよう努めたい。
			○				人権教育推進のための教員研修会の実施	新たな課題に対応するための教員向け研修会の実施。	16.7%	43.3%	36.7%	3.3%	2.73	新たに知り得たことを職員会議で研修を行なっている。
教務部	○						情報端末を活用した授業	情報機器を活用した授業の研究や操作・活用方法などについての研修を行い、多くの授業で情報端末を活用した授業を展開する。また、自動採点についても積極的に活用する。	43.3%	50.0%	6.7%	0.0%	3.37	昨年より自動採点に取り組む先生が増加した。
	○		○				観点別評価の実施	主体的・対話的で深い学びのある授業展開を行う。また、新学習指導要領の３観点に対応した評価方法について昨年度の振り返りを行い各教科で検討し、実施する。	43.3%	46.7%	10.0%	0.0%	3.33	教科主任の先生方を中心に、教科内での統一が図られている.
						○	出欠・成績管理の徹底	生徒の出欠を校務支援システムに日々入力し、その状況を活用して、教科担当・担任との連携を密にする。	40.0%	46.7%	10.0%	3.3%	3.23	校務支援システムへの入力、成績入力についてはミスなく入力できていた。
生徒指導部		○	○			○	学年・保健部・教育サポート委員会・SCとの協力	生徒の心身の健康・安全にかかわる部署と情報や対応を共有し、生徒と向き合う。	33.3%	60.0%	6.7%	0.0%	3.27	学年や保健部と情報共有を積極的に行っている。
		○	○		○	○	対話的生徒指導	問題行動に対する事実確認や聞き取りだけでなく、普段の学校生活のあらゆる場面で生徒と対話し、生徒に寄り添い、聞かれた生徒指導部を目指す。	43.3%	50.0%	6.7%	0.0%	3.37	学校全体もそうだが、生徒1人1人の実情に寄り添い対応している。
		○	○		○	○	具体的行動力	挨拶運動や遅刻者確認巡回や巡回指導、街頭補導など、現場の活動を重視し、生徒とかかわる場面を増やし、多角的に生徒と向き合える生徒指導を行う。	30.0%	60.0%	10.0%	0.0%	3.20	挨拶運動などを通して、頭髪服装指導や様々なコミュニケーションを取っている。
			○		○	○	一致団結生徒会	生徒会を有機的に組織し、行事やボランティア活動によって、全校生徒が生徒会会員である自覚を醸成し、学校内外で実業グランドを確立する。	30.0%	63.3%	6.7%	0.0%	3.23	生徒会行事の運営や、今年から新生徒会の体制に変わり学校の公式インスタグラムの開設など、積極的な活動が出来ていて今後も楽しみな生徒会である。
		○	○		○	○	生徒による生活づくり	校則やマナー、情報機器の使用ルールを生徒自ら見直す機会をつくり、皆が過ごしやすい学校生活を主体的に考え実現する場面を設定する。	33.3%	40.0%	23.3%	3.3%	3.03	前年度から始まっているタブレット導入で、マナーなどの秩序が保っていれられるか心配だったが、みんなマナーを守り適切に使用している。
進路指導部			○		○		進路説明会の実施	進路の手引を作成し、保護者や生徒に対して説明会を実施し、情報連携を深める。	56.7%	36.7%	6.7%	0.0%	3.50	学年と協力して出来た。
				○			進路セミナーの実施	各学年・時期に応じて、企業の方や派遣講師をお招きしセミナーを実施する。	63.3%	26.7%	10.0%	0.0%	3.53	例年と同じかたちで実施した。
	○						進路講話の実施	進路指導部から学年に応じた進路に関する講話を実施し、進路意識の定着を図る。	36.7%	50.0%	13.3%	0.0%	3.23	良かったと思う.
				○			進路資料室の整備	進路資料室を設置し、就職・進学・情報機器などの整備し、進路活動の充実を図る。	33.3%	56.7%	10.0%	0.0%	3.23	資料・備品共に整理した。
			○				進路委員の活用	各学年クラスに進路委員を設置し、個別の資料配布や情報提供の活動を活性化させる。	26.7%	43.3%	23.3%	6.7%	2.90	クラスの資料づくりに貢献した。
				○			勤労観の育成	就労体験(ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ)を実施し、職業意識を高める。	63.3%	30.0%	3.3%	3.3%	3.53	暑い中、生徒は良く頑張った。
			○				進路面談	個別面談を行い、進路意識の確認、希望の明確化と同時に、自己啓発を促す。	46.7%	43.3%	10.0%	0.0%	3.37	生徒、一人一人と面談し、進路を決めた。
				○			キャリヤパスポートの活用	BYODを活用し、自身の活動記録をさせ、自己理解や適正職種を探す。	16.7%	50.0%	30.0%	3.3%	2.80	学年と共に取組んでいる。
保健部	○		○			○	健康管理の徹底	定期健診の受診率を上げ、事後処置の促進に努める。 健康に関する情報を提供し、健康管理についての関心を高める。 保健教育充実のため、外部講師を招き講演会を実施する。	16.7%	50.0%	30.0%	3.3%	2.80	定期健診については養護教諭から学年集会、保健だより等で啓発をした。保健教育について、2年生は学年からの希望でアンガーマネジメントを行った。
			○			○	危機管理・組織的な連携	校内救急体制の周知徹底や救急処置法の習慣などの研修会を実施する。	50.0%	46.7%	3.3%	0.0%	3.47	消防署から講師を招聘し研修会を行った。
	○	○					基本的な生活習慣	睡眠や食事など基本的生活習慣を確立させるため、健康相談・教育相談機能を充実させる。	40.0%	46.7%	13.3%	0.0%	3.27	生徒が相談できやすいよう、保健室が開放的な雰囲気である。
1年		○					基本的生活習慣の確立	無断欠勤の解消・体調管理・服装指導・マナー指導を徹底する。	23.3%	63.3%	13.3%	0.0%	3.10	1年入学当初からそれらの指導を重点的にしているが、マナーという点で不十分なところがある。
	○						基礎学力を基盤とする指導	タブレット学習の定着。学習サポートを利用し、授業担当者との連携を図り、学習意欲と学習を充実させる。	26.7%	46.7%	26.7%	0.0%	3.00	各教科補習や個別指導において指導しているが、まだまだ追いついていないのが現状である。
			○				生徒の自主・自律・共生	学校行事・HR活動・学年集会の充実。	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	3.00	学習面や行動面において自主性を持たせるよう、HRで話して貰ったり、高校生としての自覚を持たせる話とか講話を行った。
				○			自己実現に向けての情報収集・提供	進路指導部と連携し、キャリアパスポートを活用する。	20.0%	56.7%	16.7%	6.7%	2.90	現状では、日々学校生活の取組が精一杯で、これらの取組としては不十分なところが多々あり、改善している現在である。
2年		○					基本的生活習慣の確立	無断欠勤の解消・体調管理・服装指導・マナー指導を徹底する。	20.0%	60.0%	16.7%	3.3%	2.97	配慮を要する生徒が多く、確立するまでには至っていない。
	○						基礎学力を基盤とする指導	タブレット学習、学習教育ツールの活用を定着。学習サポートを利用し、授業担当者との連携を図り、学習意欲と学習を充実させる。	46.7%	43.3%	10.0%	0.0%	3.37	タブレット導入学年でもあるため、比較的多くの場面で活用している。
			○				生徒の自主・自律・共生	学校行事・HR活動・学年集会の充実。	30.0%	66.7%	3.3%	0.0%	3.27	修学旅行を自主研修の時間を多くとり、事前学習から自主、自律、共生をイメージして取り組ませている。
				○			自己実現に向けての情報収集・提供	進路指導部と連携し、進路講話・進路ガイダンスの実施。キャリアパスポートを活用する	46.7%	43.3%	10.0%	0.0%	3.37	進路ガイダンスを多く実施して、生徒の特性に応じて段階的に計画を立てている。
3年	○						基礎学力の定着	スタサプを活用し、基礎学力の向上を目指し、進路（進学・就職）につなげていく。	23.3%	56.7%	20.0%	0.0%	3.03	全体的に意欲が低かったように思う。
		○					生活習慣の確立	挨拶を中心に規則正しい生活習慣を身に付ける。	26.7%	60.0%	6.7%	6.7%	3.07	注意されるからやっているという感じである。
			○			○	身だしなみを整える	スマートな着こなしをし、清潔な環境づくりを考える。	26.7%	53.3%	13.3%	6.7%	3.00	大半は良かったように思います。
					○		学年通信の発行	学年の様子や行事予定など、学校の様子を各家庭に向けて発信する。	30.0%	63.3%	6.7%	0.0%	3.23	しっかりと出来てきていた。
				○			進路指導	定期的に進路希望調査を行い、家庭との連携をはかり、１学期終了をもって、具体的な進路選考・決定・書類作成を行う。	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%	3.47	出来ていた。
機械科	○						ICT環境の充実	タブレット、パソコン、プロジェクターなどのICT機器を活用し、視覚的に工夫した授業を行う。	40.0%	56.7%	3.3%	0.0%	3.37	1・2年生の授業以外にも３年生の授業でもICT機器を活用して授業ができた。
		○					基本的な生活習慣の確立	実習毎の集合・点呼・講話を通して、挨拶・実習安全等の意識を高める。	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	3.60	生徒一人ひとりの小さな変化を共有し、適時その場に応じた講話を心がけることが出来た。
			○				積極的な資格取得	技能検定などの資格取得を通して、学ぶという姿勢を大切にし、自ら考え行動できるようにする。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.50	3年間で計画して、技能検定などを積極的に取得できた。
				○			キャリア教育の推進	工場見学・高大・産学連携事業を通じて、仕事に対する意識や職業観の育成を図る。	56.7%	43.3%	0.0%	0.0%	3.57	実際に自分たちが体験したことで、職業観が変化した。
					○		課題研究による地域貢献	地域の要請に応じて、作品・製品を製作したり、小中学生に対する出前工作を行う。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	3.67	外部からの依頼や企業と連携して行うことができた。
					○		オープンハイスクールの充実	数多くの講座を開講し、少人数できめ細やかな指導を行うことで、内容を充実し、中学生や保護者にアピールする。	53.3%	43.3%	3.3%	0.0%	3.50	ものづくりの楽しさを伝えることができた。
						○	危機管理の徹底	実習安全標語やポスター制作に取り組み、危機管理能力の育成を図る。	36.7%	53.3%	10.0%	0.0%	3.27	ポスターや標語により、注意喚起することができた。
電気科		○		○		○	電気工学教育の充実	企業連携、大学連携を踏まえつつ専門的職業人の育成に向けた教育の充実を図る	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.50	実習の準備、実習室の片付けなど科職員で協力して取り組んだ。実習内容の見直しを科内で検討できた。資格検定の合格率を上げるため、授業や補習についてエ夫して取り組めた。
			○		○		地域貢献活動	出前授業を実施することを通して、生徒の主体性やコミュニケーション能力を育む	60.0%	36.7%	0.0%	3.3%	3.53	課題研究において、ものづくりの楽しさを伝えるために小学校への出前授業を実施した。小学生にとても喜んでもらえた。
	○		○				ICT機器を用いた授業展開	タブレットやPCを活用し、デジタル社会に対応できる授業を展開する	60.0%	36.7%	0.0%	3.3%	3.53	各専門教科での課題提出、授業資料の配布等、授業でのICT機器活用に取り組めた。また、資格取得のための効果的な学習にも取り組めた。
					○		オープンハイスクールの充実	オープンハイスクールを通して、中学生や保護者に電気科の魅力を伝える	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.50	体験授業の内容を変更し、エコで電気科にある材料を使ってコストを抑えるものづくりに取り組んだ。課題研究の生徒と科の職員と一緒に考え、実施できた。在校生も中学生に積極的に関わって電気科の魅力を伝えた。
			○				自主性の育成	地域や企業と連携した体験的な学習活動を通して、自主的に学びに向かう力の育成を図る。	53.3%	40.0%	6.7%	0.0%	3.47	地域探究プログラムや課題研究の各講座で地域と連携した学習活動を行うことができた。また、生徒自ら課題を発見して解決しようと取り組み、商品づくりや地域のプロモーションビデオ制作など新たな取組を行いながら自ら学びに向かう力を育成できたと考える。
地域商業科	○						授業改善	新学習指導要領に基づいた、生徒にわかり易い授業改善・評価基準の精選をおこなう。	33.3%	60.0%	6.7%	0.0%	3.27	外部講師を招いて授業を実施するなど、授業改善に取り組むことができた。一方で、新学習指導要領に対応した評価方法について、科で検討していく必要があると考える。
					○		オープンハイスクールの充実	オープンハイスクールの内容をより充実し、中学生や保護者に地域商業科の特色についてアピールをする。	50.0%	43.3%	6.7%	0.0%	3.43	昨年度までの内容を改善し、体験的な活動や在校生との交流などを取り入れて実施した。地域商業科の特色をアピールできるように考えていきたい。